

## 第6回鋼構造シンポジウム「新しい鋼構造接合部設計法」

主催 日本建築学会中国支部、日本鉄鋼連盟  
共催 日本建築構造技術者協会中国支部、協同組合広島県鉄構工業会  
会場 広島工業大学広島校舎（広島市中区中島町 5-7）  
内容 「鋼構造接合部設計指針」の改定内容と新しい接合部設計法について紹介する。  
講師 玉井宏章（長崎大学工学部教授）  
日時 12月1日（土）14:00~16:00  
定員/参加費 80名/無料  
対象 本会・共催団体会員、建築技術者、大学院生、大学生  
問合せ・申込先 〒731-5193 広島市佐伯区三宅 2-1-1 広島工業大学  
工学部建築工学科 高松隆夫 takamatu@cc.it-hiroshima.ac.jp

### 概要

2012年3月に鋼構造接合部設計指針が改定された。今回のシンポジウムでは、改定内容のうち、新設された制振ブレース接合部と接合要素と接合部の基本性状を取り上げて解説する。特に接合要素にF14T級超高力ボルトが加わり、板要素の局部的なちぎれ破断耐力では支圧による変形を考慮すること等を解説します。

その後、高強度鋼材を接合するための新たな弾性接合法の1つである支圧接合ボルトの研究と展望を示す。最後に会場から講演内容の質問を受ける。

本シンポジウムは、鋼構造において重要な接合部設計法の改定に関する話題提供であり、また、接合に関する最新の研究成果も示します。是非とも、構造設計者、鋼構造製作技術者、および大学生・院生の積極的な参加を期待します。